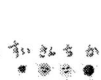
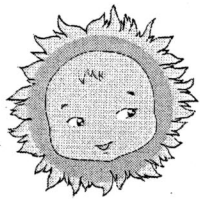


# 仙台市 天文台だより

No.212 2006.10.1



T980-0823 仙台市青葉区桜ヶ岡公園1-1

TEL 022-222-6694 FAX 022-216-4464

E-mail [voice@astro.sendai-c.ed.jp](mailto:voice@astro.sendai-c.ed.jp)

URL <http://www.astro.sendai-c.ed.jp>

## 天文台INFORMATION 10~11月



星と音楽の夕べ  
「中秋の名月と琴の調べ」

10月6日(金)18:30~20:00

演奏: 鶴巻春雲氏  
(生田流国風音楽奨励会 正師範)

星空への招待

「歌声を流し星にのせて…」

10月31日(火)10:30~12:00

担当: 千葉由佳

プレイママコンサート

「子育てを2人で楽しもう~ママの出番です!~」

11月17日(金)19:00~20:30

講師: 助産師 八幡悦子氏  
(せんだいファミリーサポートネットワーク理事)

定員あり

先着順50組 募集中!! tel 216-4463まで

プラネくんとおそぼう!

「ちきゅうをさがせ!」

10月8日(日), 11月12日(日)

各日 ①10:30~②11:30~

現代天文学への招待

「いろいろな手法で見た銀河団」

11月18日(土)13:00~15:00

講師: 岡部 信広氏  
(東北大学理学部)

星を見る会

各日19:30~21:00(晴天時のみ)

10月6日(金)…満月を見よう

10月20日(金)…秋の星めぐり

11月3日(金)…月と天王星を見よう

11月17日(金)…秋の星雲・星団

ベガ号による星を見る会

各日19:00~21:00(晴天時のみ)

10月27日(金), 11月22日(水)

勾当台公園

星空メモ

○ 満月 10/ 7 11/ 5  
● 下弦 10/14 11/13  
● 新月 10/22 11/21  
● 上弦 10/30 11/28

10月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 |    |    |    |    |

お休みの日

11月

| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |

プラネタリウムだけお休みの日

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています



みなさんは流水星を見たことがありますか？  
ほんの一瞬で消えてしまう流水星に人々は、神秘的な  
美しさを感じ、そして願いを託します。  
今回は、この流水星について詳しくご紹介いたします。  
みなさんは、流水星にどんな願いをかけるのでしょうか。

ナレーション：大坂ともおさん、半沢かすみさん、番組イラスト：小金澤文彦さん

最近、こんな質問を受けます。「冥王星って、なくなったんでしょ!!」  
冥王星はなくなっていないですよ。しっかりと太陽の周りをまわっています。

## ハナディーのこくぼん

今年8月14日～25日に、チェコのプラハで開催していた国際天文学連合 (IAU = International Astronomical Union) 総会 (3年に一度開催) で、「太陽系の惑星の定義」が決まりました。

【太陽系における惑星とは】

太陽系の惑星とは、「太陽の周りをまわっている。」「十分大きな質量を持ち、そのため自己重力が固体としての力よりも強くなったため、ほぼ球状をしている。」「その天体の軌道近くには他の天体が存在しない。」天体のことをいいます。

太陽系の惑星以外の天体は dwarf planet (惑星の定義とほぼ同じですが、軌道近くに他の天体が存在している天体。日本語表記はまだ決定していません。)、衛星 (詳しい定義は今回決定していません。)、Small Solar System Bodies (惑星・dwarf planet・衛星以外の太陽系すべての天体をさしています。) に分けられました。

今回の IAU の総会では、冥王星についても次のような決定がなされました。「冥王星は上記の定義によって dwarf planet であり、\* trans-Neptunian object 天体の新しい種族の典型例と認められる。」

IAU ではこれまで、どのような天体を「惑星」と呼ぶのかを決めていませんでした。しかし、冥王星は公転軌道のことや天体本体の半径の大きさに関して、水星から海王星までの惑星とは違っていることは知られていました。近年、冥王星の軌道近くには多くの天体が発見されだしました。このままだと将来、とてもたくさんの「惑星」が、誕生することになってしまいます。そこで、太陽系天体に関しての整理が必要となり、様々な意見が出されました。そして、前述のような太陽系の惑星の定義と冥王星の位置づけを決めることになったのです。

※ trans-Neptunian object 天体：海王星より遠くにあり、太陽の周りを回っている天体

Vol. 4

太陽系の惑星とは？



Since 1955

Since 2008

～ 西公園から ➡ 錦ヶ丘へ ～ 『天文台メモリーズ④ ～天文台前の天球儀は、なんと手作り～』

みなさんは天文台前にある「天球儀」を見たことがありますよね？これがなんと職員の手作りだということは、知っていましたか？

昭和35年、中学校の天文台実習が始まりました。中学生は、天文台のドームに並べた木の椅子に座って天文の授業を受けていました。ドームに入れないクラスは、外で待っていることになりました。その待ち時間を使って、天球の概念(天体の位置と動き方)を外でも学べるようにと「屋外大天球儀構想」が出来上がったわけです。

当時の若き職員であった倉持氏が設計図を書き、古い鉄パイプを集め、職員始め天文同好会の中高生達も手伝って、バーナーでパイプを曲げ、組み立てました。ベンチも自作。

そこに座ると、目の高さが「地平線」となります。「北点」の小さな丸が「天の北極」、つまり、「北極星」が見えるのです。赤い色に塗られたパイプが「天の赤道」、黄色のパイプは「北」と「南」と「天頂」を通る「天の子午線」です。

暑い日も寒い日も、この天球儀の中に中学生たちが座って学習していた日のことが懐しくよみがえってきます。プラネタリウムや講義室が出来てからは、使われなくなってしまいましたが、今も天文台のシンボルとしてみなさんをお迎えしています。今度いらした時には、ぜひ、天球儀の中に入って、歴史を感じて下さいね。(hiro)

新天文台だより…1階部分の基礎工事がほぼ完成しました。

てれすこ〜ぶ 今はみなさんのいこいの場となっている天球儀のほびで注意される人もちらほらです。kei

